

会津若松市（東北ブロック）

【計画期間 平成27年7月～平成32年3月】

近世は蒲生氏郷により城下町が建設され、明治初期の戊辰戦争により武家屋敷が焼失したが、明治後期から鉄道の開通による新たな市街地の形成がはじまる
昭和には郭外の市街地に神明通りが開通し市街地の新たな中心軸が形成され、現在は、商業、公共公益施設をはじめ、多くの都市機能が集積し、鉄道やバス路線の結節点となり、会津地域の中心的な役割を担っている
人口約12.4万人 面積約383km²

【中心市街地を巡る状況】

- 市全体に比べ人口減少率、高齢化率が高く、人口の郊外拡散化・空洞化が進んでいる。
- 歩行者通行量は、H10年ごろに比べると減少率は減ったものの、未だ減少傾向にある。
- 空き店舗への支援制度等により空き店舗数は減少傾向にあるが、後継者不足や建物の老朽化等の問題もあり駐車場や空地は増加傾向にある。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 新規出店者数（過去5年間の平均）
H17年度～21年度の平均 3.2件
→H22年度～26年度の平均 8.8件
- 歩行者通行量（平日と休日の加重平均）
H23: 27,477人／日 → H26: 26,151人

目標	指標	現況値	目標値
商機能の向上	新規出店者数	8.8件 （H22年度～26年度の平均）	13.6件 （H27年度～31年度の平均）
交流人口の拡大	歩行者通行量 （平日と休日の加重平均）	26,151人／日 （H26年）	27,675人／日 （H31年）
まちなかにおける市民による活動量の増加	活動拠点施設利用者数	512,179人 （H24年度）	530,233人 （H31年度）

【目指す中心市街地像】

「城下町回廊の賑わい」～まちなかの生活の場・交流の場づくりによる、賑わいのあふれる、歩いて暮らせるまちづくり

商業の活性化による 魅力あふれるまちづくり	会津若松らしさを活かした 人が行き交うまちづくり	多くの人が暮らし、集い、ふれあい、 活動する元気なまちづくり
【主要事業】 ・商業・アミューズメント施設「ロイヤルプラザ」改修整備事業 ・神明通り商店街一体的整備構想事業 ・市役所通り商店街「ファサード改修等による通りや路地空間の魅力創出整備事業」 ・会津版家守事業 など	【主要事業】 ・七日町通り門前町づくり一体的整備事業 ・歴史的建造物を活かしたまちなか賑わい拠点づくり事業 など	【主要事業】 ・スマートウェルネスシティ事業 ・まちなかコミュニティ機能再生事業 ・市道若3－221号線拡幅整備事業 ・(都)会津若松駅中町線道路美装化事業 など

会津若松市中心市街地活性化基本計画の事業概要

商業の活性化による魅力あふれるまちづくり

- ①商業・アミューズメント施設「ロイヤルプラザ」改修整備事業
空きフロアを改修し、飲食店や小売店舗の再誘致による施設の魅力向上と隣接する神明通り商店街との回遊性向上、商業集積を図る
- ②神明通り商店街一体的整備構想事業
商店街を一つの大規模商業施設とみため、駐車場改修、路地裏整備、アーケード建替え、テナントミックス、スマートシティ推進等により一体的な整備を図る
- ③市役所通り商店街「ファサード改修等による通りや路地空間の魅力創出整備事業」
店舗外観を統一したコンセプトに基づき整備し回遊性・滞留性の向上を図る仕掛けづくりやテナントミックスによる商店街の魅力向上を図る
- ④会津版家守事業
エリア内の歴史的建造物や空き店舗等の遊休不動産を活用しテナントの誘致等の利活用を図る

会津若松らしさを活かした人が行き交うまちづくり

- ⑤七日町通り門前町づくり一体的整備事業
寺社仏閣等の地域素材を活用した門前町づくりと憩いの空間づくりやテナントミックス事業による通りの魅力向上を図る
- ⑥歴史的建造物を活かしたまちなか賑わい拠点づくり事業
歴史的建造物等を活かし、市民や観光客の交流の場づくりやテナント誘致により経済活動の活性化と地域コミュニティの形成を図る

多くの人が暮らし、集い、ふれあい、活動する元気なまちづくり

- ⑦スマートウェルネスシティ事業
健康をテーマとしたコミュニティスペースの整備や健康教室等を通して高齢者を含む地域住民の交流促進による賑わいづくりと健康増進を図る
- ⑧まちなかコミュニティ機能再生事業
商店街等に地域の活動拠点となるコミュニティ機能の形成を図る
- ⑨市道若3-221号線拡幅整備事業
市道の拡幅整備による車両の相互通行化により回遊性、利便性の向上を図る
- ⑩(都)会津若松駅中町線道路美装化事業
会津若松駅から鶴ヶ城までの基幹軸の一部の町並み景観整備と道路整備を図る

